

## 平成 26 年度第 2 回機器及び安全に関する委員会 議事録

日時：平成 26 年 8 月 28 日（木） 17:30～20:00

場所：日本超音波医学会事務局会議室

参加者（15 名、敬称略）：秋山いわき、馬場一憲、工藤信樹、谷口信行、蜂屋弘之、鎌倉友男、梅村晋一郎、石原謙、名取道也、笹沼英紀、内藤みわ、立花克郎、近藤隆、桑田知之、新田尚隆（記録）

### 1. 前回議事録確認（資料 1）

- ・ 前回議事録を確認した。

### 2. 幹事の交代について

- ・ 現幹事出向のため、交代を検討。

### 3. ”The safe use of ultrasound in medical diagnosis”の翻訳について（配布資料）

- ・ 著作権（5 年間）に係る手続き完了。翻訳作業に着手。
- ・ 翻訳版は、2015 年 1 月を目途に公表の予定。

### 4. 音響放射力の生体への影響検討小委員会の報告（資料 2,3）

- ・ 動物実験の経過報告。
- ・ 肝臓・大腿骨（温度上昇）： $I_{SPTA,3}$ が  $0.715W/cm^2$ （<規制値）であるとき、肝臓では造影剤有無ともに  $1.5^{\circ}C$ を超えず、また造影剤有無による温度上昇には有意差がなかった。骨では  $1.5^{\circ}C$ を超える場合があった。肝臓と骨では有意差があった。
- ・ 心臓（期外収縮）：造影剤無の場合、 $MI=1.8, 4$ で期外収縮は起きなかった。造影剤有の場合、 $MI=1.8$ では起きなかったが、 $MI=4$ では起きた。昨年と同傾向、再現性あり。
- ・ 日超医英文誌に論文 2 編採録。
- ・ 温度上昇について IEEE Int Ultrasonics Symp で発表（2014/9/4）

### 5. 検査環境検討小委員会の報告（資料なし）

- ・ 超音波医学会と検査学会で展示及びレクチャーを実施。検査学会では関心が高かった。
- ・ 検査学会では来年度も開催。超音波医学会では開催なし。

### 6. 経膈プローブの消毒法に関する小委員会報告（資料 4）

- ・ 探触子 HPV 汚染の現状調査。現在、一次医療施設で 22 検体、二次医療施設で 28 検体の計 50 検体の調査終了。その結果、一次医療施設で 1 検体、二次医療施設で 1 検体、計 2 検体の HPV 陽性を確認。しかしハイリスク型ではなかった。今後、100 検体までの調査を実施。

7. IEC TC87 WG 及び IEC SC62B/MT34 フランクフルト会議報告 (資料 5)

- 高音圧測定では、ハイドロホン測定とシミュレーションを組み合わせた方法を検討中。
- 最近 ARFI 機能の装置が米国 FDA 510(k)認可されたことに関して、case by case ベースであること、温度上昇のデータが求められるなどの簡単な意見交換があった。
- TI の変更については、マイナーチェンジに留まる見込み。
- 次回会議は、2015 年英国、2016 年東京で開催予定。

8. その他

- 次回は 11 月頃。その後は 2 月頃を予定。後日、日程調整。

以上